

二〇一九年六月三十日、下田山真福寺で一周忌をかねた納骨法要。連日の梅雨空が納骨の時間には晴れた。

禅寺の本堂に坐し妻想う 五十八年走馬灯のごと

納骨の墓地の周りの森中に 鶯ら鳴きて妻迎えるがごと

納骨の読経始まり雨晴れて 線香の煙静かにのぼる

納骨を終えて墓石振りかえり 肩の荷ひとつ降りしを感ず

肝がんに倒れし友より便りあり 「回復信ず」と決意書きおり

梗塞で倒れし友より電話あり 嬉しさあまり大声で応ず

納骨後初の墓参に来てみれば 梅雨寒のなか花は生きおり